

# 日刊 勤労千葉

85. 5. 31

No. 1952

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

## 一回乗務員分科学習会を開催

### 戦術的国鉄労働運動の根幹支える原則で武装

第一回乗務員分科学習会は、五月二十九日、各支部青年層を主体に四〇名の結集を得、千葉運転区講習室において開催された。

本部水野副委員長が講演



「勤労千葉の中核を担う組織として、自らを鍛え上げ向ってこう」西森乗務員分科会長があいさつと激励

冒頭、西森乗務員分科会長より「乗務員分科会は労働運動の原則を守り、国鉄労働運動再生のために闘いぬく勤労千葉の中核を担う組織として全会員が責任を自覚しなければならぬ。そのために職場抵抗闘争の構築に向けた学習活動の強化を図るため、学習会を開

講することとなった」とあいさつした。つづいて、本部の水野副委員長を講師に「労働組合とは、職場と労働運動について」をテーマに



講師は水野副委員長

①資本主義のしくみについて、②労働組合とは、③今日の労働運動と職場闘争、について講演を行った。水野副委員長は、労働運動の重要性、とりわけ今日直面している国鉄再建攻撃に労働者の闘う魂を解体する攻撃に対し、これと闘いに闘い、職場生産点の活性化、組織的前進を実現していくのかについて、解り易く解説された。そして、労働運動の原則を守って闘いぬくことの重要性和、闘いの原点こそ団結の力であることについて力強く提起された。

参加した会員は、メモをとり、熱心に学習し、十五時三〇分、成功裡に第一回学習会を終了した。第二回学習会は六月一二日、千葉運転区講習室において、十時より開講する。

# 選別的「余剰人員」攻撃を許さぬ 勝浦支部定期委

## 今こそ力の結集を

### ——鶴岡支部長があいさつ——

冒頭、鶴岡支部長は「『59・2』『60・3』の合理化攻撃により、運転職場に四〇〇名の過員がいる。われわれは、いかに職場を守っていくのか。千鉄当局は、学園入学に際し、ワッペン着用に対して攻撃をかけてきたし、通対の学園入学に対しては、名札の着用を強要してきた。当局の狙いは、再建に名をかりた組織破壊攻撃であり、たかがワッペン、名札といつて軽視すべきではない。一人一人が認識し、理解した力の結集が今こそ必要である」とあいさつした。

本部水野副委員長は、勤労千葉の「三本柱」粉碎、過員対策にふれて、当局の要員機動センターの目論見を粉碎してきたこと、そして現在、通対の学園入学をめぐる国鉄当局が人事課を先頭に

勝浦支部第七回定期委員会は五月二一日、十三時より本部水野副委員長、片岡執行委員が参加するなかで、議長に井高委員を選出して行われた。

## 「勝浦支部通信員・発」

名札の着用攻撃をかけてきたこと、そのうらには勤労「本部」の屈服路線があること、等によれ、当局の攻撃に対しては真正面から対決して闘い、具体的戦術については柔軟に対応していくとの本部分針を明らかにした。

本部片岡執行委員は「全国レベルの攻撃が、いま千葉に始まって、やがては全支部に拡大されてくるだろう。当局の理不尽な攻撃には断固闘っていく」と決意を述べた。

### 団結で職場の主導権を確立することを確認

鶴岡書記長より経過報告と当面する取り組み、および暫定予算が提案され、一括審議する中で、選別的余剰人員攻撃を許さず、さらなる団結と職場の主導権を確立するための闘いを継続することを確認して委員会を終っていった。